

## 熊本 S.J.C.D.例会抄録

日 時：2012年5月22日 火曜日

発表者：小坪義博

(合同例会発表抄録)

多数歯欠損や無歯顎の患者で顎堤の吸収が進行したケースにおけるインプラント治療では固定性上部構造よりもオーバーデンチャーによる修復の方が人工歯の排列位置や歯肉のボリュームの自由度が高く、良好な審美性の回復が可能である。また、オーバーデンチャーを撤去して清掃することができるため、高齢者に対する口腔清掃指導が容易になると考えられる。

インプラント上のオーバーデンチャーの維持装置にはバーアタッチメントとスタッドアタッチメントが使用されている。バーアタッチメントは支持が強固で、大きな咬合力の回復を期待できるが、アタッチメント周囲の義歯内面に大きな空隙が必要であり、歯肉増殖の原因となる。スタッドアタッチメントはインプラント同士の連結はできないが製作が容易で義歯の粘膜面に空隙を必要としない。スタッドアタッチメントにはゴム、プラスチックまたは金属クリップの弾力や摩擦を利用して維持力を発揮するものと磁力による吸着力を利用するものがある。磁性のアタッチメントは有害な側方力を発生させないのでインプラント上のスタッドアタッチメントとして有用性が高いと考えられる。また、摩耗や破損する部品がなく、維持力が減衰することがないため、メンテナンスが容易である。さらに着脱方向の自由度が高く、手先の不自由な患者への適応や介護を受けている高齢者への使用にも適していると考えられる。

今回はスタッドアタッチメントを利用したオーバーデンチャーの臨床応用について症例を供覧し、特徴を解説する。